
山羊

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

山羊

【コード】

N8288L

【作者名】

川崎ゆきお

【あらすじ】

富岡はナイフで山羊の首筋をこするよつに斬る仕草をする。

富岡はナイフで山羊の首筋をこするように斬る仕草をする。

「いいか、山羊の目を見て殺さないといけないんだ。そうすれば山羊も覚悟する。見てやらなければ駄目なんだ」

小学生たちの目は真剣だ。

動物写真家の富岡は小学校から呼ばれて話をするようになった。

野生の証明という写真集は、動物の表情がよく捕らえられていることで、国際的な賞もとっている。

「いいかい、山羊がかわいそうだと思うのなら、しっかり目を見てやるんだ。それが情けだ。じっと見つめてやると、観念して、死んで逝くのがよく分かるんだ」

富岡は、そのときのことを思い出したのか、目が血走っている。ゾクツと冷たいものが子供たちに走った。

「おまえは死ぬが、俺の体の中で、その肉が活かされるんだ。動物はな、悔やみごとや、恨みごとなんて言わない。殺し合うのがルールなんだ。それが自然なんだ。食うか食われるかなんだ」

子供たちは理解しようとしていた。少なくとも、ここは小学校の教室で、授業だ。耳をふさぐわけにはいかない。

「そして、死ぬ瞬間、ぐつと抱き締めてやるんだ。命をありがとうと礼を言っつてな。山羊から力が抜けていくのが分かるんだ。それを抱きしめることが大事なんだ。それが人間としての礼儀なんだ」

泣き出す女の子がいた。

「先生はどうして山羊を殺したの？」

今まで、黙って聞いていた一人が発言した。

「食べるためだよ」

子供たちは山羊など食べたことはなかった。

「お金がなかったの？」

富岡は質問の意味が分からない。まだ、殺人鬼のような目をして

いる」

「ご飯を食べるお金がないから山羊を食べたの？」

意外な質問だった。

「土地の習わしで、山羊を食べるんだ」

「おいしいの？」

「うまくはない」

「じゃあ、食べなくてもいいじゃん」

富岡は言葉に詰まった。

「山羊の表情を、しっかり見てやるんだ。それが人間としての礼儀なんだ」

「だったら、殺さなければいいんだよ」

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8288/>

山羊

2010年10月10日21時48分発行